

## 西洋中世哲学史 第1回 (2016.04.12.)

1 「今まで、何語を学びましたか」に対する回答は、以下の通り。

英語 (12名), ドイツ語 (8名), サンスクリット (5名), 中国語 (4名), ロシア語 (2名), フ  
 ランス語 (2名), (古代) ギリシア語 (2名), 日本語 (2名), ラテン語 (1名), スペイン語  
 5 (1名), アラビア語 (1名), インドネシア語 (1名), オランダ語 (1名)

全体で 16 名からの回答で、一人で複数回答しているはずですが、はじめから、日本語と英語を省  
 いて回答している人がいるので、英語と日本語は 16 名になるはずですが。

この授業では、西洋古典語 (ギリシア語・ラテン語) と西洋近代語 (イタリア語, フランス語,  
 ドイツ語, オランダ語, 英語など) の文献に言及することが多くなりますが、原則として、原典  
 10 とその日本語訳を併記して示しますので、原典の部分を読めなくても心配はいりません。安心し  
 て下さい。

## 2 質問等

Q. 1 西洋哲学を理解し易くするポイントなどはありますか。

A. 1 そんなものがあれば、私が教えてもらいたいところです。是非、教えてください。

15 Q. 2 外国語は苦手なのですが大丈夫ですか。

A. 2 大丈夫・・・だと思います。本人が苦手と言っている、その内実は、人によって違  
 いますから。

Q. 3 ログスの冠詞が男性なのは何か意味があるのでしょうか。

A. 3 ログス ( $\lambda\acute{o}\gamma\omicron\varsigma$ , logos) が、文法上、男性名詞だということだけだと思います。ログスを  
 20 「ことば」と解して、ラテン語では, verbum (ヴェルブム) と言いますが、これは、中性名詞です  
 し、「理 (ことわり), 理性, 比率」という意味に解して訳すと, ratio (ラティオ, ラチオ) となり、  
 これは、女性名詞です。

Q. 4 「種子」をどうとらえればいいのかわからなかったです。

A. 4 「たね」ですから、いずれ、展開・成長して、何かになるための設計図やプログラムを  
 25 もっているけれども、まだ今は、展開していないもの、ということです。

Q. 5 予備知識が無く、よくわからなかった。

A. 5 わからなかったことのうち、何でもよいですから、「～とは、どういう意味ですか？」と  
 いう形にして、この用紙で質問して下さい。

Q. 6 レポートのテーマや数字などはその都度教えて頂けるのでしょうか。

30 Q. 6' レポートの細詳 (詳細?) (字数何字以上, お題, etc.) を教えてください。

A. 6 いずれ、授業でも、Web サイトでも伝えます。あせらずに、まず、ショーペンハウアー  
 「哲学史について」「大学の哲学について」より: pdf ファイルとヤスパース「哲学・哲学史につ  
 いて」(『哲学入門』より): pdf ファイルを読んでおいて下さい。

Q. 7 授業スタイルは板書中心ですか? それえともプリント中心ですか? また要点が少し分  
 35 かりにくかったです。

A. 7 プリントを中心にして、それを補うために、板書します。実際、要点として取り出せる  
 ことはなかったかもしれません。

Q. 8 最終的なこの授業の目標は何ですか?

A. 8 哲学を専門にしようとする人たちに対しては、誰が何を論じているかの実例を知って、そ  
 40 れを研究するためには、どういう道具立てが必要であるかを知ってもらうこと。また、哲学を専

門としない人たちに対しては、山内志朗先生（慶応義塾大学）の次のつぶやき（2015年1月24日のツイッター）を、少しでも実感してもらうこと。

中世哲学？ また尋ねられた。中世のヨーロッパの知性の精髓が築いた知の巨塔。桁外れの知性の生み出した人類の知的遺産なのだが、同じくらいの知性がないと理解できない。近世に入っ  
5 入ったの並みの知性では理解できず、煩瑣にして空虚の概念の戯れと捉えたが、そんなことはない。（山内志朗）

Q.9 授業の評価基準はシラバスと同じか。

A.9 「授業の評価基準」というのは、学生による授業の評価ですか、それとも、成績のつけ  
かたのことですか？ 後者なら、学生にとっては、甘い、と思います。

10 Q.10 先生は何種類くらいの言語をされているのですか。

A.10 何か国語かという数は重要ではなくて、ある研究テーマを追求するために、必要な外国語の読解力（文献を読む場合）と読むこと以外の運用能力（外国語で書くとか、話す、聞く）が、  
どれくらい必要かは、テーマによって大体、決まってきます。中世なら、羅希仏独英伊西、それにヘブル語、アラブ語でしょうか。

15 Q.11 質問に答えてそれで90分たったとしても大丈夫だと思います。

A.11 はい。質問の内容にもよりますし。質問に答えることが、授業内容を進めることになる場合もありえると思いますから。

3 受講する理由については、以下の通りです。一人で複数回答あり。

1) 教員免許（高校公民）の単位をとるため（9名）

20 2) 単位が必要だから（3名）

3) 自分の専門分野の授業だから、専門の単位をとるため（2名）

4) 思想文化的なものに興味があるから（3名）

5) 科学哲学・科学思想史のレジュメが興味深かったからと、近世哲学史を受講して、中世も  
学びたいと思ったから（1名）

25 6) 自分がよく知らない中世哲学について知るため、また「中世哲学が現代で持つ意味（ママ）」  
（シラバス）に興味があったため（1名）

7) 早起きするため（1名）

7) はなかなか、すてきな理由です。

5) の中で「レジュメ」という表現がありますが、私の感覚では、「ハンド・アウト (handout)」で  
30 す。résumé は、「摘要、大意」ですから、「要約したもの」の意味で、handout は、文字通り、「配布物」です。私が授業で配布したもの (handout) は、「摘要、大意」を記したのもあったかもしれませんが、原則として、授業に関連するテキストの原文そのもの（の一部）であったと思います。

6) について、シラバスでは、「中世哲学研究の現代的意義」と書いたかもしれませんが、「中世  
35 哲学が現代で持つ意味（ママ）」とは書けなかったと思います。もし書くとしても、「現代に中世  
哲学が持つ意味」とするのではないかと思います。これらの違いがわかりますか。

動詞の目的語になる名詞が具体的な場合は、動詞も漢字で、抽象的な場合は、動詞は平仮名という  
区別です。例えば、

手に小旗を持つ。 / 寛容な心をもつ。

40 ということに、です。この区別は、ある時期までの書き手によっては徹底しているので、他人の書  
いたものを読むときに、注意してみてください。ワープロやパソコンの使用が広まるにつれて失われ  
つつあるのが実に残念な区別です。

## 西洋中世哲学史 第2回 (2016.04.19.)

Q. -1 先生はアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』を見(観)たことはありますか？

A. -1 観たことはありませんので、綾波レイのことも知りません。ん？

Q. 0 キティちゃんの手さげは、先生が買われたものですか？

5 A. 0 お土産に、いただいたものです。ハワイのお土産なので、キティちゃんがフラを踊っています。

Q. 1 聖霊と天使は同じものですか、それとも別のものですか。

A. 1 別のものです。どちらも、人間に何かを伝えたりする点で似ていますが、決定的に違うのは、天使は、神によって造られた被造物であるのに対して、聖霊は、被造物ではなく、はじめから在ります。というのは、三位一体の「父と子と聖霊」は、その実体は、同じひとつの神である、とされるからです。

Q. 2 3分法、2分法ってどういうことですか？

A. 2 時代区分として、古代、中世、近世(現代)と三つに分けるのが三分法で、地の国の支配の時代と神の国に支配の時代と二つに分けて考えるのが二分法です。古くは、五つに分ける五分法もあったようです。このように分けるのは、分けたそれぞれの時代に、何らかの意味・価値を付与して、時代を理解するためだと考えられます。

Q. 2' 神の国、地の国の対立・闘争とは何ですか。

A. 2' アウグスティヌスの『神の国』(岩波文庫の翻訳で、全5冊)を読んでから、自分で理解しようとした上で、それでもわからなかったら質問してください、と言いたいところですが(もう言ってますが)、それでは答にならないので、少し、説明を加えると、「地の国」は、キリスト教徒でない人たちの支配、「神の国」は、キリスト教徒による支配を象徴的に表していると思われま  
20 す。キリストの誕生以前は、完全に、非キリスト教の世界(地の国)ですが、キリスト誕生以降は、キリスト教徒による支配が、少しずつ、行なわれるようになり(神の国、地の国の対立・闘争)、最終的には、完全に、キリスト教徒による支配が行なわれる(神の国)ようになる、というのが、その筋書きです。ですから、ここまでが、江戸時代、ここからが明治時代、というように、  
25 ~年~月~日から、スパッと、時代が変わる、という、時代の二分法ではなくて、「地の国」が支配している中で、徐々に、「神の国」の支配が優勢になってなっていく、ということなのですが、現世では、「神の国」の支配が100パーセントになることはなく、現世では、限りなく、100パーセントに近づくとしても、「神の国」の支配が100パーセントになるときは、現世の終わり、この  
30 地上に新時代が訪れるわけではない、とアウグスティヌスは考えているようです(この点が、ヨアキムとの違いです)。

Q. 3 中世哲学をこれから勉強していく上で、これだけはおさえておくべきことは何かありますか。

A. 3 「おさえておくべきこと」(がら)でもなく、「中世哲学」に限ったことでもないのですが、考察対象として取り上げる資料・文献を、できるだけ、先入観なしに(これが難しいのですが)理解するように努めることと、そこから読み取ったことが、中世ではいつでもあてはまると  
35 思わないこと、でしょうか。

Q. 4 高校世界史で、中世=暗黒の時代と習った。Joachimの思想が影響していると知ってびっくりした。

A. 4' Joachimの発想により中世を暗黒とする思想は哲学だけでなく他の学術分野(例えば歴史学など)にも大きく影響を与えたのですか？それとも歴史の分野で中世を暗黒とする考え方はJoachimとは別に生じたものですか？

Q. 4'' ヨアキムが、今に残る中世は暗黒の時代というイメージをつくったということになりますか？

Q.4” 中世の時代が暗黒だといわれたのは、中世の時代よりも後で、その時代に生きていた人は後でそんなことを言われようとは思ってもいなかっただろうと思いました。

A.4 ヨアキムによる三区分によって、待望される、第三の「精霊」の時代の前の、第二の「中間」の時代という発想は、それだけでは、直ちに、中世=暗黒の時代、ということにはならず、中世が現実についていつまでであるかはともかく、一旦、中世(中間の時代)が終わり、第三の時代になってから、この新しい、昔よりよい、第三の時代(例えば、これを「ルネサンス」として、それ以前とは区別して価値を認める)を称揚するようになってから、第三の時代が明るく輝かしい時代とすれば、それとは、相対的に、それ以前の時代(中世)は、暗黒であった、とする発想が生じているのだと思われます。

その意味で、Q.4” のコメントはその通りだろうと思いますが、実際には、そう思っていた人たちもいたろうし、思っていなかった人もいたろうと考えられます。

従って、Q.4” の言うように、ヨアキムの発想だけが原因で、中世が暗黒と見なされるようになったわけではなくて、第三の時代(ルネサンス)を称揚する見方が、これに加わって、中世は暗黒の時代というイメージができるのでしょう。

そして、Q.4’ のいう他の学術分野(例えば歴史学など)については、実は、別の難しい問題があります。というのは、そもそも、歴史学・史学が成立するのは、いつか、という問題です。それも、単なる、歴史記述ではなくて、学術的な史学思想ともいえるべきものであれば、19世紀以降でしようから、意識していようがまいが、ヨアキムや、たとえば、ブルクハルトらのせいでしょう。

Q.5 … Joachim が42世代で計算した理由は何故か気になった。

A.5 ヨアキムは、彼の聖書解釈に基づいて、アダムから数えて、キリストまでは、42世代あると考えていたからです。例えば、『マタイによる福音書』1.1~17までを読んだことがありますか。人名がたくさん出て来る箇所です。これによると、アブラハムからダビデまで14代、ダビデからバビロン移住まで14代、バビロン移住からキリストまで14代で、42代ということになるのでしょう。

Q.6 現代は(2)の時代、最後の審判以降は新しい時代(良いものととらえる?)とありましたが、このキリスト教の「最後の審判」とは何をもって「最後の審判」といえると先生はどう考えていますか? 人によってはもう「最後の審判」はきて、今が新しい時代なんだ! という人もいるでしょう。先生の考えを聞きたいです。

A.6 私は、社会的には仏教徒(浄土真宗)で、キリスト教の信仰をもちませんから、信仰の内容としての答はもちあわせません(が、研究のために、ヘブル語(ヘブライ語)の『旧約聖書』、コイナー(ギリシア語)の『新約聖書』、それらのラテン語訳である『ウルガタ聖書』、その各種の日本語訳、欽定訳(英語)、Basic English 訳、ロシア語訳、イタリア語訳、ドイツ語訳、フランス語訳、ついでに、アラブ語(アラビア語)の『クルアーン(コーラン)』、その英訳なども手許にあります)。が、内容が重要なので、正統か異端かという表現はどちらでもよいのですが、異端とされたヨアキムの考えでは、1260年にすでに、「最後の審判」がきているとすると、Q.6の質問者の問、何をもって「最後の審判」といえると考えるのか、に答えなければなりません。正統(例えば、アウグスティヌス)の信仰によれば、「最後の審判」が行なわれるのは、この現世の終末(終わり)ですから、この現世が続いている限り、まだ、「最後の審判」はきていないし、まだ、きていないものが、どういうものかは、わからない、と答えることができます。そして、それは、明日かもしれないし、ずっと先かもしれないし、人間にはわからないことなので、いつ、「最後の審判」がきててもよいように、信仰に従って生きるだけ、ということになり、信仰のある者にとっては、説得力があると思います。

Q.7 … 宗教という点に重点を置いて研究をしているピーター・ブラウンは、古代末期の終わりを8世紀といつているのですが、哲学においては古代は4・5世紀くらいまでと考えればよいのでしょうか。

A. 7 Peter Brown の *Augustine of Hippo, A Biography*, 1967, London, Boston: Faber and Faber は、アウグスティヌス研究には重要な本ですから、私も学ばせてもらっています。最初に配布した、年表の「古代 II (古代末期)」の最後は、教父哲学の Beda Venerabilis 673-735 となっていますから、これは 8 世紀です。古代を長めにとれば、ここまでで、8 世紀ということになるでしょう。非キリスト教のギリシア哲学ということであれば、象徴的な出来事として、529 年のアカデメイア閉鎖まで、ということになるでしょうが、この後も、ギリシア語を用いてギリシア哲学にたずさわった人たちはいるので、一応の目安にすぎません。一方、中世哲学はというと、アウグスティヌス (354-430) を抜きにして語れませんから、4 世紀から語らなければなりません。つまり、数百年ずつ重なっていて、いつから、と線を引くことはできない、ということです。中世末期とルネサンス、近世の始まりも、簡単ではなくて、実は、14 世紀のオッカムにすでに、ここからもう近世といってもいいんじゃないか、という考えがありますが、時代区分というのは、その名称も含めて、時代区分をする人 (研究者) が、その時代にこめた (い) 意味と解釈がある、人為的なものですから、固定的に考えないほうがよいと思います。

Q. 8 中世の"暗さ"を決定づけることになった Joachim de Floris はどのようにして、発掘されたのでしょうか。また、"地下"で流布していた Joachim de Floris の思想は、何を媒介にして広まったのでしょうか。

A. 8 質問で言われている「発掘」「地下」という表現は、文字通り、地面の下に埋もれていたものを、掘り出す、ということではないですから、誤解をまねくような私の説明が適切でなかったのかもしれない。というのは、ヨアキムの歴史に関する考え方が異端だと言っても、正統のかトリク教会から全く、抹殺されたということでは、全然、ありません。ヨアキムは、当時の教皇たち (ルキウス三世、ウルバヌス三世、クレメンス三世、ケレスティス三世) から、「啓示によって見たままに著述する資格」を与えられ、教皇たちと交流をもって、重要な問題について相談を受けたり、皇帝ハインリヒ六世からは、サン・ジョバンニ・イン・フィオレに新しく修道院をつくる特権を与えられ、フィオレ修族を結成し、さらに、イングランドのリチャード獅子心王と面会したりしています。そして、ヨアキム自身は、自分が没する直前に、自分の全著作を教皇庁に提出して、一切の裁可を委ねています (その後、この著作がどうなったかはわかりません)。

例えば、ダンテの『神曲』天堂篇、第十曲にトマス・アキナス、第十二曲に、ボナヴェントゥラと、このヨアキムがうたわれているのは有名です。

・・・ e lucemi da lato

il calavrese abate Giovacchino,

di spirito profetico donato. [Dante Alighieri, *La divina commedia*, *Pardiso*, XII, 139-141.]

また予言の霊を授けられたるカラーブリアの僧都ジョヴァッキーノわが傍 (かたへ) にかがやく (山川丙三郎訳)

問題は、ヨアキムの死後に起こります。はじめのうち、ヨアキムの著作は、フィオレ修族や、ヨアキムが属していた、シトー会の修道院に温存されて、一般には、流布しなかったようですが、1240 年前後に、ヨアキムの著作が、フランシスコ会士の手へ渡って、その内容が知られると、その影響を受けた、フランシスコ会士ボルゴ・サン・ドンニーノのゲラルドゥスという人の、『永遠の福音入門』が書かれて、これが流布して、(ゲラルドゥスによって手を加えられた?) ヨアキムの考えが知られました。そして、教皇アレクサンデル四世のときに、この『永遠の福音入門』は、異端として断罪されます。これは、一例ですが、ヨアキムの死後も、16 世紀に印刷本が出るまで、手書きの写本の形で、シトー会の修道院などに保管されて、それを読める人は限られてはいたけれども、世に主流の考え方として出ることはなく、連綿と伝えられていたのです。それが、十九世紀の終わりから、二十世紀になると、十三世紀のトマス・アキナスやボナヴェントゥラなどの研究がすすむにつれて、その前に位置する、ヨアキムの思想からの影響についても研究されるようになって、にわかに、ヨアキムも研究されるようになってきたようです。

## 西洋中世哲学史 第3回 (2016.04.26.)

Q.1 先生のプリントにあるギリシア語やアラビア語はどうやってタイプしてるんですか？

A.1 MacOS9.22までは、NisusWriterというワープロで、OSX以降では、 $\text{\TeX}$ を使っています。ところで、これまで、あっちこちで、しばしば引用してきたので、またか、という人もいる  
5 かもしれませんが、プラトンが次のようなことをソクラテスに言わせています。みなさんは、どう  
10 思いますか。耳の痛い人<sup>1</sup>もいるのではないかと思いますが...

Τὸ γοῦν νῦν ἀμάρτημα, ἦν δ' ἐγώ, καὶ ἡ ἀτιμία φιλοσοφία διὰ ταῦτα προσπέπτωκεν, ὃ  
καὶ πρότερον εἶπομεν, ὅτι οὐ κατ' ἀξίαν αὐτῆς ἀπτονται· οὐ γὰρ νόθους ἔδει ἀπτεσθαι,  
ἀλλὰ γνησίους. [Plato, *Respublica*, VII, 535C5-8]

10 「少なくとも、現在行なわれている間違いと、哲学にふりかかっている軽蔑とは、こうした  
ところから起こっているのだからね」とぼくは言った、「つまり、前にも言ったように、その  
資格もないような人々が哲学に手をつけているからなのだ。というのは、生まれのいかがわ  
しい者たちがこれに手をつけてはならなかったのであって、正しい生まれの者たちにだけそ  
15 れが許されるはずだったのだから」(プラトン『国家』7巻, 535C5-8, 藤澤令夫訳)

15 こういうのもあります。右から左へ読みます。

نَوَادِرُ

مُحَاوَمَةُ الْعَشْرَةِ

Q.2 哲学は「進化」していると思いますか？ 資料8 ページ25行目あたりから使われている  
「貢献」という言葉がひっかかったので。

20 A.2 「進化」ということばの意味次第ですが、よくなっていく、ということならば、そうは  
思いませんし、私の身の回りでは、むしろ、後退、いや、退化していく気がします(というのも、  
哲学史を研究する方法を身につけていない人が、自分では、哲学をやっているつもりになってい  
るからです。A.1で引用したプラトンが、痛いところをついています)。Q.2が指摘している箇所  
25 は、「哲学の一般的な歴史に対して、何か意味のある貢献をなしたか？」と言っているので、「中  
世」の哲学が、「中世」にしかないような問題提起や発想(ただし、何か意味のある問題提起や発  
想)を、西洋哲学史に付け加えたか、という程度の意味ではないかと思います。

30 哲学(問題そのものを自分の頭で考えること)と西洋哲学史(現在も含めて過去の哲学者の思  
索がどうなっているかを明らかにする、主に、文献学的研究)とは、分ちがたいですが、区別し  
た上で、同時に行なう、という作業が要求されます。人によって比重が異なりますが、ド・リベ  
ラがやっているのは、中世に焦点をあてた、西洋哲学史の研究です。

Q.3 非キリスト教の観点から中世哲学史を記述したものが無いのはどうしてですか？

Q.3' 「中世哲学史は、一般的に、西欧キリスト教(徒)の観点から書かれている」というこ  
とについて、確かに！と納得しました。

35 キリスト教徒から見た中世哲学史は、非キリスト教徒から見たそれよりも、主観的で自分たち  
に都合の良いものになっているのでは？

非キリスト教徒←(キリスト教世界を客観的・批判的に見れる)から見た中世哲学史にも触れ  
てみたいです。

<sup>1</sup>もつとも、そういう教員は、プラトンのテキストを原典で読んだことがない、というか、読める学力が  
ないので、プラトンにこんなことを言われていることも知らないかもしれませんが、せめて、翻訳で読んで  
ほしいものです。

Q. 3” 先生の話聞いて一次文献に触れることの大切さが改めて思い知らされました。中世哲学に対する岩崎先生のような見方は現在でも多いのですか？

A. 3 正確に言うと、非キリスト教の観点から記述された『中世哲学史』という著作はない(か、あるかもしれなが、寡聞にしてその存在をまだ知らない)、ということになると思います。というのは、中世の部分だけを記述したものが『中世哲学史』という著作ということになりますが、『西洋哲学史』と題して、その中に、古代・中世・近世・現代と、西洋哲学史を通史的に記述したものは、数多くあり、その中の「中世」の部分だけ取り出せば、それが、中世哲学史を記述したもの、ということになります。そして、そういう通史的な、『西洋哲学史』は、非キリスト教の観点から書かれたものも少なくありません。先に紹介した、岩崎武雄『西洋哲学史』も、そのひとつです。5  
10  
15  
20  
25  
30  
35  
40  
45  
50  
55  
60  
65  
70  
75  
80  
85  
90  
95  
100  
105  
110  
115  
120  
125  
130  
135  
140  
145  
150  
155  
160  
165  
170  
175  
180  
185  
190  
195  
200  
205  
210  
215  
220  
225  
230  
235  
240  
245  
250  
255  
260  
265  
270  
275  
280  
285  
290  
295  
300  
305  
310  
315  
320  
325  
330  
335  
340  
345  
350  
355  
360  
365  
370  
375  
380  
385  
390  
395  
400  
405  
410  
415  
420  
425  
430  
435  
440  
445  
450  
455  
460  
465  
470  
475  
480  
485  
490  
495  
500  
505  
510  
515  
520  
525  
530  
535  
540  
545  
550  
555  
560  
565  
570  
575  
580  
585  
590  
595  
600  
605  
610  
615  
620  
625  
630  
635  
640  
645  
650  
655  
660  
665  
670  
675  
680  
685  
690  
695  
700  
705  
710  
715  
720  
725  
730  
735  
740  
745  
750  
755  
760  
765  
770  
775  
780  
785  
790  
795  
800  
805  
810  
815  
820  
825  
830  
835  
840  
845  
850  
855  
860  
865  
870  
875  
880  
885  
890  
895  
900  
905  
910  
915  
920  
925  
930  
935  
940  
945  
950  
955  
960  
965  
970  
975  
980  
985  
990  
995

それに対して、「中世」の部分だけを取り上げて、『中世哲学史』という著作をする人たちがいますが、その場合は、「中世」に何らかの意味や価値を見出して、肯定的な評価を「中世」に与えようという意図があるので、非キリスト教の観点からそれをやろうという人はあまりいない、ということなのです。中世哲学史としては、キリスト教に関する記述を、当然、含みますから、上述のようなことになりますが、哲学、と言わずに、数学史、とか、論理学史とかに限定すれば、例えば、『中世論理学史』という著作が、非キリスト教の観点からも、可能ですし、そういう著作は現にあります。

また、Q. 3’の感想は、もっともではあるのですが、しかし、「非キリスト教徒←(キリスト教世界を客観的・批判的に見(ら)れる)」というのは、必ずしもそうとは限らず、「中世哲学」を非キリスト教徒の立場から、主観的に、自分たち(非キリスト教徒)に都合のよいように見ている、とも言えるのです。ですから、どっちもどっち、ということになるのですが、もし、非キリスト教徒が書いた「中世哲学史」の記述があつて、その中で、「中世哲学」の優れた部分を評価して、肯定的に記述しているものがあれば、それは、ひよっとすると、読むべき価値のある、本物かもしれないのです。

Q. 3”は、中世哲学にかぎらず、研究の方法にかかわることで、その人の研究の価値を左右する重要な問題に触れています。中世哲学について論述する(中世哲学史を書く)にあたり、少しでも、中世の一次文献を自分で読んだ人ならば、「中世は暗黒」とか、「哲学は神学の婢」のような記述はしないだろうと思います。では、日本語でも、少なからず出版されている、『西洋哲学史』の「中世哲学」の部分の記述は、何に基づいて書かれているのでしょうか。考えられるのは、例えば、岩崎武雄『西洋哲学史』の文献表に挙げられていた、欧文(英独仏)の哲学史の本の「中世哲学」の部分の記述を読んで、そこから得た情報を自分の言葉で述べているのではないかと、いうことです。欧文(英独仏)で書かれた哲学史の本の著者は、中世の一次文献を自分で読んでいるかもしれませんが、また、それを読んで、書かれた哲学史は、また聞きの内容ですから、伝言ゲームのように、内容が正確に伝わっているという保証はありません。(ショーペンハウアーの「哲学史について」を読んでもらえばわかると思います)そして、このことは、哲学史の書物だけではなくて、哲学史や哲学概論の講義についても言えることです。この点で、はじめから日本語で書かれた、哲学史の本のうち、中世哲学の部分について、著者が、一次文献を読んで書いている、という点で信用できるものとして、以下のものがあります。

1) 内山勝利／中川純男編著、1996、『西洋哲学史[古代・中世編]』、ミネルヴァ書房(古代も中世も複数の著者が分担執筆していますが、それぞれが一次文献を読んで研究している専門家です)。

2) 辻村公一／佐藤三千雄／小熊勢記／神子上恵群(編)、1991、『哲学のエポック』、ミネルヴァ書房(中世の部分の担当は、山本耕平先生で、中世哲学の専門家です)。

3) 今道友信、2010、『中世の哲学』、岩波書店。

4) 今道友信, 2011(1987), 『西洋哲学史』, 講談社学術文庫, の中世の部分.

Q. 4 . . . すごく基本的な質問で申し訳ないのですが, 先生が考えられる哲学を学ぶ意義 (高校生は選択必修) はを教えてください.

Q. 4' 先生は何がきっかけで哲学をやろうと思われたのですか . . . ? 私にはどうも難しすぎて, おもしろさがまたわからないので, 何がどうおもしろいと感じられてるのか, 聞きたいです.

A. 4 日本では, 高校生にとって選択必修なのは, 哲学ではなくて, 「倫理」ではないですか. 倫理学と哲学は同じではありませんから, どう違うかは, 各自, 考えてみてください.

フランスのリセの最終学年 (大学に入る前の年) では, philosophie (哲学) が必修ですが, その内容は, 日本の大学でいえば, 教養科目の「哲学」以上ですから, 逆に, 大学に入ってから, 日本やドイツの大学であるような「哲学概論」や「入門」(Einleitung in die Philosophie) のような授業がなく, いきなり, 専門的な「哲学」に授業が行なわれます.

私の場合, 高校生のときに, 『人文学へのいざない』に書いたようなことはありましたが, きっかけ, といえるようなものではありません. 大学へ入る前に, 哲学をやろうと決めていましたが, 気がついたら, そうなっていた, としか言えません.

おもしろさ, 何がおもしろいか, というようなことかもしれないかもしれませんが, わからないことがあるからやっているのだから, そのやっていることが哲学だった, という順番でしょうか. 人によっては, そのやっていることが, 哲学以外の～学であった, ということになるのではないですか.

「哲学を学ぶ意義」ということですが, 何かに役立つ, というところまでいかななくても, 何らかのねらいがあるとすれば, はなはだ, 消極的で申し訳ないのですが, 自分がいかにものを知らないかを思い知るようになること, ではないかと思います.

また, 「おもしろさがまたわからない」ということについては, 「おもしろさ」ということの意味次第なのですが, ある哲学者の言ったり, 書いたりしたことを, 聴いたり, 読んだりして, なるほど, 「おもしろい」と思って (これは自分に合う, という言い方でもよいかもしれません), ニーチェをやるとか (これはヤスパースも言ってますね), ヴィトゲンシュタインをやるとか (他に何でもよいですが) というのは, 哲学を専門にやろうという人の場合, 大抵, ダメです. そうではなくて, 何かのきっかけで, テキストを読んでも, つまらないし, 何言っているんだかわからないけれども, どういうことなのか, 自分もわかるように勉強してやろう, という態度でなければ, 哲学をやるのに向いていません. 専門の演習や講読では, 原語でテキストを読む訓練をするのが目的ですが, その訓練に耐えられず, もともと, 自分自身もっていた哲学的疑問や問題意識もどこかへ行ってしまうようでは, 問題になりません. 哲学も, 学問としてやるならば, 自分はいやできらいでも, 勉強して知らなければならぬことがあります. 誰か (哲学者) の本や解説書をちょっと読んで, 「おもしろい」と思うようでは, 逆に, また, 別の誰かのテキストを読んでみて, 「おもしろく」なかつたら, きらいだから, それ以上読まない, 勉強しない, ということになってますが, そういう態度のまま, 哲学史の本や教科書の類いを読めば, 大体, 何を言った哲学者かわるから, 例えば, カントの『純粋理性批判』を 50 歳になるまで, 冒頭からドイツ語で全部読んだことのない人が, 高校の倫理や, 大学の教養科目ならまだしも, 学士課程の専門の哲学や大学院の授業を担当する, というのは, 後学の者に悪影響を及ぼすのでやめたほうがよい, と思います.

Q. 5 近世の人が中世をふまえようとしなかった背景にはどのようなことがあったのですか?

A. 5 近世初頭の人たちは, ある程度, 中世のスコラ哲学の内容を知った上で, その良い点には触れず, 悪点だけを嫌って, 批判したのだと思いますが, 時代がくだると, 中世のスコラ哲学の内容自体を知らずに (理解できずに), 批判するので, そもそも, ふまえようにも, ふまえる対象・内容を知らないから, ふまえようがなかったのだらうと思います. その象徴的な例として, カント (1724-1804) の有名な言葉が『純粋理性批判』B 版 (1787) の序言の中にあるのを, 博学な諸君ならご承知でしょう.



Daß die Logik diesen sicheren Gang schon von den ältesten Zeiten her gegangen sei, läßt sich daraus ersehen, daß sie seit dem Aristoteles keinen Schritt rückwärts tun dürfen, wenn man ihr nicht etwa die Wegschaffung einiger entbehrlichen Subtilitäten, oder deutlichere Bestimmung des Vorgetragenen, als Verbesserungen anrechnen will, welches aber mehr zur Eleganz, als zur Sicherheit der Wissenschaft gehört. [I. Kant, *Kritik der reinen Vernunft*, Vorrede, B VIII]

論理学がすでに最古代からこの確実な進路を進んだことは、アリストテレス以来一步も後戻りをする必要のなかったのだからわかる、若干の不要な煩瑣性を除いたり、取り扱われている事柄を一そう明瞭に限定したりしたことをこの学の改良であるとみなしたりしなければ。(天野貞祐訳)

つまり、アリストテレス以来、論理学は進歩していないというのですが、事実はそうではありません(中世に論理学は進んでいますから)。もし、あのカントが、例えば、14世紀のオッカムの *suppositio* 論(代示理論、代表理論)を知っていたら、こういう発言はしなかったはずですが、つまり、カントは、オッカムの *suppositio* 論を知らなかったし、知りたくても、そういう情報が伝えられていなかった、ということでしょう。(実際、オッカムの *suppositio* 論がある程度、正確にわかるようになったのは、20世紀になってからですから)

「中世は暗黒」という言い方をする人は、おそらく、どの分野にせよ、中世のことを知らないで言っているのではないのでしょうか。つまり、「中世が暗黒」なのではなくて、そういうことを言う人の「おつむが暗黒」なのではないのでしょうか(その人は中世のことを知らない、という意味)。逆に、自分で中世のテキストに取り組んで、中世のことを研究している人たちは、中世のことを知っているのだから、「中世は暗黒」という言い方をしないだろうと思います。

Q.6 アウグスティヌスのいう神の国と地の国の「闘争」というのは、精神的(?)なものですか? それとも、現実の戦争を肯定するものですか?(これも精神的なものなのかもしれないけど)あるいは、アウグスティヌスにその気がなくても、後世の人々が異教徒を攻撃するために(十字軍など)アウグスティヌスの学説が利用されたりしましたか?

Q.6' 地の国と神の国についての考えが自分が思っていたのと違ったので驚きました。

A.6 十字軍のことは、専門でないのだからわかりませんが、神の国と地の国の「闘争」は、精神的にも物理的にも(実際、ローマへ北の方から異なる民族の方々が暴力を行使しながら侵入してくるので、抵抗しようとするれば、実際上、戦争です)考えられます。「現実の戦争を肯定するものですか?」という部分は、「戦争することに同意・賛成する」という意味ではなくて、現実的に、「戦争・武力行使」が生じていることを事実として認める、という意味に解してよろしいですか。アウグスティヌス自身の考え方では、「戦争・武力行使」をよし、とすることはないとはいえませんが、解釈の仕方によっては、(攻められるので、やむを得ず、防衛戦としてではなくて、攻められていないのに、こちらから自発的に攻撃を仕掛ける)戦争をすることを認めている、として、自らが引き起こす戦争の正当化に利用される可能性はありますが。

Q.7 7ページの"中世など存在しない"ということについて何となくは分かったのですが、まだ正直よく分かりませんでした。

Q.7' アラン・ド・リベラは「中世など存在しない」と言っておきながら、その後「中世世界」という言葉を使っていることに矛盾を感じました。単に自分の理解力が無いだけかもしれませんが...

A.7 ド・リベラが「中世など存在しない」と言うときの「中世」(A)と「中世世界そのものが二つ以上存在した」と言うときの「中世」(B)が同じだと考えたら、わからなくても当然です。ド・リベラ以外の論者が言うような、ひとつのまとまったものとしての「中世」(A)など存在しないけれども、ド・リベラが考える、個々バラバラの持続としての、複数の「中世」(B)世界は存在する、と言っているのです。

## 西洋中世哲学史 第4回 (2016.05.10.)

第3回 (2016.04.26.) でふれられなかった質問 (アラン・ド・リベラの表現について)

Q.0 "啓示神学"とありましたが, "神学"とどのような関係にあるのでしょうか.

A.0 「神学」を分類して, 「自然神学」と「啓示神学」と大きく二つに分ける場合の言い方で  
5 す. 従って, 問いに対する答としては, 「啓示神学」は, 「神学」の下位区分の一つ, というこ  
です.

Q.0 複数の持続については, 彼らの信ずる宗教の考え方によって相互に影響を受けているだ  
ろうが, 具体的な性格がどれほど違うのか.

A.0 個々の持続についてみないと, 何とも言えないでしょうね.

10 以下は, 第4回 (2016.05.10.)

Q.1 前の時代から後の時代に伝達される際に起きる「誤解」が良い方向に結びついた例はど  
のような (ものが) ありますか.

A.1 学力不足による, 単なる「誤読」や「誤解」ではなくて, 意図的な「誤読」(通常の解釈と  
は, 違う読み方) をしてみせた例として, フーコーの *Les mots et les choses* (『言葉と物』) があり  
15 ます. 古代, 中世と伝統的に, 記号ともとの観念 (的存在) の3項関係で考えられてきたものを,  
17世紀の『ポール・ロワイヤル論理学』では, 記号ともとの2項関係に変わっている, という読み  
方をします. しかも, 『ポール・ロワイヤル論理学』は, 実は, 伝統的な3項関係で書かれている  
のですが, 意図的に, 2項関係になっている, と解釈しています. 3項関係が2項関係になるこ  
20 との哲学的意味は, 1年分の講義のテーマになるほどなので, ここでは, これ以上触れませんが,  
フーコーの言っていることは, 従来の哲学史を書きかえるようなインパクトのあることなのです.

Q.2 中世のオッカムの *suppositio* 論が非常に進んでいたものであることを知ることができま  
した. と?? と (frotasse: とすると), 近世の論理学がどのように水準が低かったのか気になりま  
した.

A.2 A.1で挙げた『ポール・ロワイヤル論理学』が, 伝統的論理学 (古代~中世初期) に基  
25 づいている, というのが, その一例です. 論理学史の本を読んでみて下さい.

Q.3 オッカムの代示理論を知っていたら, こういう発言をしなかったはず, と先生に言わし  
めるような論があったにもかかわらず, それを知ることができなかったという状況は「暗黒」だ  
といえるかもしれませんね.

A.3 そのような状況が出現したのは近世において, ですから, 「近世は暗黒」ということす  
30 ね. 誤解のないように, 少し補うと, 「近世は (中世に関して) 暗黒」でしょうか.

Q.4 "哲学"は, 現在, 西洋ではどのような立ち位置ですか?

A.4 これはまた, 大きな問いなので, 答に窮しますが, 否定的な答なら, すぐに思いつきます.

現代ではもはやヨーロッパ哲学は普遍性を失い見るかげもないありさまになっているのに対  
し, ヨーロッパ数学はヨーロッパという形容詞を削ぎ落とし人類共通の学としていまなお堅  
35 実な発展を遂げつつあるという事実はだれも否定できない. [山下正男, 2015, 『思想の中の  
数学的構造』, ちくま学芸文庫, p. 385, 「文庫版あとがき」より]

哲学の普遍性といわれるものは, ある意味で, 何でも考察対象にする, という点にあります  
が, 近現代の例で言えば, かつては, 広い意味での哲学の中にあつた, 心理学 (古くは, アリストテ  
レスの『デ・アニマ』), 社会学, 美学などが, 哲学から独立して, 哲学から出て行った後, 哲学に  
40 残っているのは, (哲学的に狭い意味での) 認識論, 存在論などだけ, という状況を言っている,  
と思います.

Q. 5 哲学と倫理学は同じではない、というところで、私は「(広義の) 哲学の一分野が倫理学(狭義の哲学)」と考えているのですが、先生はこの違いをどうとらえていますか？

A. 5 「倫理学」は「狭義の哲学」ではありません。この意味で、「倫理学」は「哲学」ではありません。アリストテレスの学問の領域区分に従えば、「広義の哲学」の一分野に「狭義の哲学」と「倫理学」があるので、「狭義の哲学」と「倫理学」は同じではありません。

Q. 6 原典を手にとってみるとことが大事だということが分かりました。先生が初めて読まれた原典はどのような著作だったのかお聞きしたいです。

A. 6 大部なので、全部読んだわけではありませんが、大学に入る前に、父の書架にあった、Macoulay の *History of England* の一巻だったと思います(英語、祖父の蔵書)。他にも、Mill や Hume の本があったことを覚えています。通読したのは、大学に入ってから、Aristoteles の *Categoriae* (ギリシア語) です。

Q. 7 哲学者の中には、過去の哲学者の原典を読んだことがない人もいて、という話を聞き、驚きましたし、残念な気持ちになりました。専門家がそれでいいのか...

A. 7 よくありません。しかし、与えられた時間と能力に限りがあるので、研究に必要な文献を、最低限、読むべきだと思います。

Q. 8 哲学書の翻訳を読むときは1つの訳しか読んでなかったもので、これからは他の翻訳も読まなければいけないと感じた。

哲学者の著書は、その人の著作によって言っていることがちがっていたりするので難しい。その場合、書かれた時期が遅いほうが"~派"の考え方になるだろうかと疑問に思った。

A. 8 翻訳が複数あれば幸運ですが、翻訳がなくて原典しかない、ということもあります。ただ、古典的な著作の場合は、複数の翻訳がありますから、可能な限り、参照するのがよいでしょう。

後半はちょっと違います。同一の著者の中で、初期、中期、後期と言っていることが変わることはありえます。それに対して、「~派」というのは、その著者の没後、その著者の説を信奉する人たちとその主張を指し、元の著者のどの考えとも違うこともありえます。

Q. 9 「知りたい」という状態は、欲望にもとづくものでしょうか、理性によるものでしょうか。(欲望である、理性である、両方である、その2つは分たれない、その両方でもない、そんな問はナンセンスだ、など)

A. 9 私自身は、「欲望にもとづくものか、理性によるものか」という問に関心がないので、お役に立てるようなことは言えません。ただ、この問を意味のあるものとして、受けとめる人は、暫定的にせよ、「欲望とは何か」「理性とは何か」ということを前提にしているでしょうから、この問に答える前に、「欲望」と「理性」の暫定的な定義を明らかにしてから、それに基づけば、「~である」という答は出せるかもしれませんし、そのほうが哲学的には意味があると思います。因に、アリストテレスが、『形而上学』A 巻冒頭で次のように言っていることは有名ですね。

πάντες ἄνθρωποι τοῦ εἶδεναι ὀρέγονται φύσει. [Aristoteles, *Metaphysica*, A, 980<sup>a</sup>1]

人はすべて生まれつき知ることを欲する。

Q. 10 自分の頭で考え、また？ に哲学史を勉強する必要があるならば、現在の哲学者は過去の哲学史とかぶらないように独自の哲学を構築するのは大変ではないでしょうか？

A. 10 大変です。そこで、現実には多い研究は、自分の哲学を主張するものではなくて、哲学史の研究です(これは、哲学者ではなくて、哲学史家の仕事ですが)。

Q. 11 先生はどんなゴールデンウィークを過ごされましたか。

A. 11 授業期間には、自分の勉強ができないので、自分の勉強をしようと思いましたが、あまりできませんでした。

## 西洋中世哲学史 第5回 (2016.05.17.)

Q.1 フーコーの *Les mots et les choses* において、「しるし=ことば」・「魂の中の状態」と「もの」の2項関係が提示されていましたが、フーコーの考える「魂の中の状態」をもう少し詳しく教えてください。

- 5 A.1 まず、「魂の中の状態」と訳したのは、フーコーではなくて、アリストテレスの『命題論』での3項関係の説明で使われる表現です。近現代風の言い方をすれば、「観念」や「概念」となるでしょう。そして、「しるし=ことば」と「魂の中の状態」と「もの」を想定すると、3項関係になります。フーコーの意図は、この「観念」や「概念」を消し去って、能記(signifiant・しるし=ことば)と所記(signifié・もの)の2項関係にしてしまう、というところにポイントがあります。とい
- 10 うのも、「魂の中の状態」=「観念」「概念」を認めると、質問者のように、「もう少し詳しく教えてください」などと言ってきたり、神の観念があるとか、普遍的な観念がある、とかいう議論をする人がでてくるからです。ですから、「魂の中の状態」を知りたいければ、フーコーではなくて、アリストテレスや中世に書かれた、アリストテレスへの註解を読む必要があります。フーコーは、次のように言っています。

15 *Cependant la propriété des signes la plus fondamentale pour l'épistémè classique n'a pas été énoncée jusqu'à présent. En effet, que le signe puisse être plus ou moins probable, plus ou moins éloigné de ce qu'il signifie, qu'il puisse être naturel ou arbitraire, sans que sa nature ou sa valeur de signe en soit affectée, — tout cela montre bien que le rapport du signe à son contenu n'est pas assuré dans l'ordre des choses elles-mêmes.*

20 *La rapport du signifiant au signifié se loge maintenant dans un espace où nulle figure intermédiaire n'assure plus leur rencontre : il est, à l'intérieur de la connaissance, le lien établi entre l'idée d'une chose et l'idée d'une autre. La Logique de Port-Royal le dit : « le signe enferme deux idées, l'une de la chose qui repré-sente, l'autre de la chose repré-sentée ; et sa nature consiste à exciter la première par la seconde » . Théorie duelle du signe, qui s'oppose sans équivoque à l'organisation plus complexe de la Renaissance. [M. Foucault, *Les mots et les choses*, 1966, Paris : Gallimard, pp. 77-8]*

記号の特性のうちで、古典主義時代の〈エピステーメ〉にとってもっとも基本的なものは、これまで述べられなかった。実際、記号の蓋然性の度合が場合によって異り、記号とそれが記号であるところのものとのへだたりに程度の差があり、さらに記号が自然的なものでも恣意的なものでもありうるにもかかわらず、それがその記号としての性格にも価値にも影響をおよぼさないこと — こうしたすべては、記号とその内容との関係が物それ自体の秩序のなかで確立されていないことをよく示している。

いまや能記と所記との関係は、いかなる中間的形象も両者の出会いをもはや保証しない空間のうちに宿っているのだ。それは、認識の内部において、〈ある物の観念〉と〈他の物の観念〉とのあいだに設けられた紐帯にほかならない。『ポール=ロワイヤル論理学』はそのことを明言している。「記号は、一方において表象する物の観念、他方において表象される物の観念という、二つの観念を含んでいる。記号の本性は、前者によって後者を喚起する点にある。」これは記号の二元的理論であり、ルネッサンスにおける、より複雑な組織とはっきり対立する。(フーコー/渡辺一民・佐々木明訳、『言葉と物』, pp. 88-9.)

40 Q.2 牛とカモシカの話がおもしろかったです。ことば(単語のつづりや発音)は時代によって変わってきますが、この2項関係は常に成り立つのかなーと疑問に思いました。

A.2 牛とカモシカの話は、次の本(p. 137)に載っています。今は、古本でしか入手できないのが残念ですが、是非読んで欲しい本です。

Q. 2' 「ある言葉がある事物を示すだけでなく、ことがらそれ自体を用いて、あることがらを表示させることがある」とのことですが、そうなる文化の違う日本で、西洋の学問を研究するのは思っている??? (たより、?) ハードルが高いのだと気づかされました。

A. 2' ですが、文献だけによっても、わかるところまでわからせることができるのが「学」です。5  
すから、悲観的になる必要はないと思います。西欧にあつて、中東 (特に、イスラーム) のことを研究した、R. ニコルソン (1868–1945) という例があります。

Nicholson, R. A., 1914, *The Mystics of Islam*, London: Bell and Sons LTD.

ニコルソン／中村廣治郎訳, 1996, 『イスラームの神秘主義』, 平凡社ライブラリー。

Q. 2'' 神はことばでなく、雷や雨や地震などの事物によっても、なにかを伝えることができる  
10 という話で、科学が未発達で、自然現象のしくみが明らかになっていなかった時代には、そういう原因不明の現象の根拠を神に求めるのは自然なことかもしれないと思いました。

A. 2'' かもしれませんね。しかし、ルクレティウスは、紀元前1世紀の人ですが、『事物の本  
性について (*de rerum natura*)』で、こう言っています。

cetera quae fieri in terris caeloque tuentur  
15 mortales, pavidis cum pendent mentibu' saepe,  
et faciunt animos humilis formidine divom  
depressosque premunt ad terram propterea quod  
ignorantia causarum conferre deorum  
cogit ad imperium res et concedere regnum. [Lucretius, *de rerum natura*, VI. 50 – 55]  
20 地上および天上において人々が起こるのを見るその他のものが  
しばしば怖れを抱く心の上に望むとき、  
神々への恐怖で人の心を低く垂れさせ  
地面におしつけてしまう。なぜなら、  
その原因への無知が、万物を神々の支配にゆだね  
25 その統治を認めさすのだから。(藤澤令夫訳)

つまり、実際には存在せず、人々の想像の産物でしかない「神、神々」への恐怖心を、時の権  
力者が利用して、無知な人々を支配する手段に利用しているのだ、と暴いています。「科学が未発  
達で」ということで、かたずけることはできません。かえって、現代の私たちの理解力・知性が  
未熟で、昔より退化しているのです。昔の人が言っていることが理解できなくなっているのもし  
30 れません。

Q. 3 アル=キンディーやアル=ファラビーなどはイスラームだっただけだと思いますが、イスラーム  
の考えとアリストテレスの教えがミックスしてヨーロッパに入ってきたとは考えられないのでし  
ょうか?

Q. 3' アリストテレスの著作がヨーロッパに伝わるまでに時間がかかっていたんだなと思いま  
35 した。

Q. 3'' ギリシアのアリストテレスの哲学が、イスラームのフィルターを通したときに、その内  
容に多少の変化はあったのでしょうか。(アリストテレス哲学の尊重、研究はされたようですが、  
イスラームの世界観が影響を与えることはあったのでしょうか。)

Q. 3''' アラビアの哲学は西洋哲学とつながりがあると思いますが、アラビア側はキリスト教  
40 圏の哲学を何故取り入れることができたのですか。敵対はしていましたか?

A. 3 もちろん、ギリシア哲学は、イスラーム教の範囲内で受け入れられる形で、受容されまし  
た。間違わないでほしいのは、キリスト教圏の哲学を受容したのではなくて、キリスト教成立以

前のギリシア哲学を受容した、ということです。特に、アル=キンディーは、イスラム神学にも精通していて、ギリシア哲学をイスラム神学の中に整合的に受け入れた、といえるでしょう。例えば、ギリシア哲学では、一般に、この世界は永遠に存在するもので、(ユダヤ教, キリスト教, イスラム教のように) 世界の始まり, 創造神による, 世界の創造ということの問題にしません。それ  
5 よりも、現に、この世界が何からできているか、どういう仕組みになっているか、ということ、つまり、自然、といわれるもののほうに関心をもっています。そこで、キンディーは、この世界は、現に、ギリシア人の言ったように、自然によってできているが、実は、ギリシア人は気づいていなかったが、もともと、その自然から、この世界ができるようにと、すべてを造ったのは、神である、  
10 というように理解します。ですから、私たちは、キンディーが、創造神としての神に言及するところは別にして、そうでない箇所からは、ギリシア哲学の内容を読み取ることができるのです。

井筒俊彦, 1991, 『イスラーム思想史』, 中公文庫 (『著作集』にも再録)。

Q. 4 ゲルマン人の流入によりヨーロッパでギリシア語が訳されなくなった話、とても興味深かったです。なぜゲルマン人はギリシア語を自分たちの言葉に訳さなかったのでしょうか？

A. 4 ゲルマン人に訊いてください、と言いたいところです (もう言ってますが)。おかげで、  
15 ヨーロッパの中心部では、ギリシア語を読める学者がほぼいなくなってしまったのですが、例えば、パリから遠く、アイルランドまで行くと、ローマ時代から伝えられた、ラテン語やギリシア語を読める学者がいて、9世紀に、シャルル二世禿頭王は、アイルランドから、ギリシア語の読める、ヨハネス・スコトゥス・エリウゲナ (c. 810–c. 870) をパリに招聘します。

Q. 5 西村氏の訳のところで、たぶん、ラテン語原典からではなく、フランス語訳からの重訳  
20 だろう、という話がありましたが、なぜそう判断できたのですか？

A. 5 西村さんの訳文と、赤井がラテン語から訳した訳文を比較してみると、違いがわかると思います。ラテン語から訳したのでは、西村さんの訳文のようにはならないと思うからです。

Q. 6 哲学と倫理学の違いについてわかりました。倫理学と道徳はどう違うのですか？

A. 6 「倫理学」と「道徳」と日本語でいう限り、「倫理学」は学であるけれども、「道徳」は学  
25 ではない (習慣的なきまり)、ということしか言えないでしょう。「道徳哲学」とか「道徳論」という言い方をすれば、それは一種の「学」的なものであると言えます。また、哲学者や学派によっても違うでしょうから、具体的に、誰々の考えでは、これこれになる、という答しかできません。そこで、これらの語のもとの意味を考える必要があります。

日本語としての「倫理」は、四書五経の中で、『礼記』の楽記第十九に、

30 凡音者生於人心者也。(凡そ音は人の心に生ずる者なり)

楽者通倫理者也。(楽は倫理に通ずる者なり) 『礼記』 楽記第十九より

と言われていて、ここでの「倫理」は、「万物の秩序」とか「人間にも物にも通じる道理」のような意味であって、現在、大学の倫理学の分野で研究対象とされていることとは、ずれている、  
35 と思いますが、ethics (ギリシア語のethos, エートスは、「人柄」くらいの意味) の訳語としての「倫理」の名称そのものは、ここから採られたのでしょうか。しかしそれよりも、『論語』の孔子がしばしば、いにしへの儀礼が行なわれなくなったのを嘆いて、儀式をあるべき姿に戻すことを望んだ、その儀礼は『礼記』に著わされており、中でも、儀礼で用いられる音楽について述べているのが、楽記だとすれば、儀礼で用いられる音楽は、倫理、すなわち、「万物の秩序」とか「人間にも物にも通じる道理」に通じている、ということなのでしょう。

40 しかし、問題は、「倫理」が訳語として使われたもとの、ethics(英語)、そのさらにもとの、ギリシア語のἠθος(ethos, エートス)が、「人柄、品性」という意味で、学問名としてのethicaは、従って、「エートス(人柄、品性)についての学」という意味なのです (これが、ethicaが、人の徳ἀρετή(aretē,

アレテー)を扱う「徳論」とされる理由でしょう)。他方、「道德」のほうは、ギリシア語起源ではなくて、ラテン語の *mores* (< *mos*, 習俗, 習慣) に由来します。この両方が、それぞれの意味で用いられて、カントの時代になると、どう区別されるようになったかが、カントの次の言葉からわかります。

5 Ethik bedeutete in den alten Zeiten die Sittenlehre (philosophia moralis) ueberhaupt, welche man auch die Lehre von den Pflichten benannte. In der Folge hat man es rathsam gefunden, diesen Namen auf einen Theil der Sittenlehre, naemlich auf die Lehre von den Pflichten, die nicht unter  
10 aeusseren Gesetzen stehen, allein zu uebertragen (dem man im Deutschen den Namen Tugendlehre angemessen gefunden hat): so dass jetzt das System der allgemeinen Pflichtenlehre in das der Rechtslehre (*ius*), welche aeusserer Gesetze faehig ist, und der Tugendlehre (*Ethica*) eingetheilt wird, die deren nicht faehig ist; wobei es denn auch sein Bewenden haben mag. [I. Kant, *Die Metaphysik der Sitten*, 1797, VI. S. 379.]

15 倫理学は古代では道德論(道德哲学)一般を意味した。これはまた義務論とも呼ばれた。年を経て、この名称を道德論の一部門即ち外的法則の下に立つのではない義務の論究(ドイツ語では徳論という名称が適合している)にだけ当てるのが適切であるということになった。かくて今や、一般的義務論の体系は、外的法則に関する法論(法学)の体系と、それには関しない徳論(倫理学)の体系とに区分される。(カント、『道德の形而上学(人倫の形而上学)』、黒積俊夫訳)

Q. 7 コメント紙 11 ページ, Q. 7, A. 7 を読んでの質問です。「哲学者」は専門家ですか？

20 宇宙や人間についての素朴な疑問について考える中高生は、哲学者とは呼べないでしょうか？(原始の哲学者の姿はこうであったと思います)。

A. 7 誰であれ、誰かを「哲学者」と呼ぶのは自由ですから、どうぞお呼びください、と申し上げます。しかし、私は、呼びません。というのも、「哲学者」という言い方を、できるだけ、私は使いたくないからです。このことばほど、人によって、理解される内容が違うことが、私にとって嫌なこと(というか、困ること)はないからです。ですから、私のことも、「哲学者」とは呼ば  
25 ずに、軽蔑をこめて、「哲学・学者」とか「哲学研究者」とか「哲学史家」とか呼んでもらったほうがよいと思います。が、質問者の言い方に従って、最初の問いに答えると、「専門家」です。それも、「学」としての「哲学」をやっている人のことです。ですから、「原始」(がいつの、ど  
30 ういう時代かはわかりませんが)には、「学」としての「哲学」が成立していなければ、「原始」には、その意味での「哲学者」は存在しません。「哲学者」風の人はいたかもしれません。アリストテレスが、タレースに注目したのは、ホメロスやヘシオドスの語り方では、不可能だった、論理的・合理的に(*logos* に即した)批判が可能な主張をしたことによって、「学」としての「哲学」の可能性を認めたからだと思います。

35 専門に音楽の勉強をしていない人でも、鼻歌を歌ったり、音楽を聴いて楽しめますが、音楽を専門に勉強してトレーニングを受けて、音楽にたずさわっている人と同じ意味で、どちらも「音楽家」と呼ばないと思います。(比喩的に、前者を「音楽家」だというのは言う人の自由ですが)

この問題については、「2015 年度前期・西洋中世哲学史・コメント」の p. 3, 第 3 回(2015.04.28.)の Q. 1 と A. 1 が関係あると思うので、参照して下さい。

40 Q. 8 今日の講義を聞(ママ, 聴)いていて、個人的にアリストテレスの考え方は好みだな思ったのですが、先生は好きな哲学者などはいますか？ いたら教えて下さい。

A. 8 好きというわけではありませんが、卒論で取り上げて以来、もっとも影響を受けているのは、アリストテレスだと思います。

## 西洋中世哲学史 第6回 (2016.05.24.)

Q.1 先週起きれなかったのが残念です。(コメントを読んで)

A.1 前回のどの Q. & A. を読んでそう思ったのですか？

受講生の諸君が、どんなに眠くても、起き出して、パジャマ姿で、枕を抱いたままでも、出席  
5 してしまうような、おもしろい授業ができなくてすみません。

Q.2 "思想は思想から出発したら全然駄目なのです"という部分について、その意味はわかる  
のですが、では一体思想はどこから出発すればいいのでしょうか。現実世界に則して、というこ  
とでしょうか。

A.2 いいえ、違います。(世間を書物にみたとて、そこから学ぶ、ということは、デカルトが  
10 『方法序説』で言っていますね) そうではなくて、他人によって、思想が表現され、自分が思想を  
表現する「ことば」の使い方を学ぶだけです。私が矢印をつけた部分の森有正先生の文章をよく  
読んでみて下さい。

Q.3 森有正さんの「思想は思想から出発したら全然駄目なのです。」という文章を読んで、私  
のフランスに対するイメージとつながって、スッキリしました。(フランス人の演奏は、機械的で  
15 がっちりしていると思っていたので)

A.3 そうですか。例えば、誰(作曲者)のどの曲を、誰(演奏者)が演奏しているのを思い  
浮かべていますか？ この感想を読んで、私が大学1,2年のころ、大沼忠弘先生から言われた、ド  
イツ語とフランス語についての話を思い出しました。

Q.4 アラビア語圏は哲学のイメージがなかったので、文献が残っていることにびっくりしま  
20 した。先生はアラビア語も読まれるのですか?? 哲学界において、中東はどのような位置づけなの  
でしょうか？

A.4 普段、「哲学界」という表現を使わないので、新鮮です(たぶん、初めて見ました)。哲  
学・西洋哲学史の研究領域としては、9~13世紀の、アル=キンディー、アル=ファラビー、イブン  
=シーナー(アヴィセンナ)、イブン=ルシッド(アヴェロエス)らのアラビア語・ペルシア語文献  
25 とそのラテン語訳が研究対象になっていますが、近現代の中東に関しては、哲学の研究領域とし  
てよりは、宗教、政治、思想などが一体となった「イスラーム」として総合的に研究する、という  
スタイルになっているので、哲学として特定の思想を研究する、ということは、(私の不勉強によ  
るのか)寡聞にして、あまり聞きません。もっとも、フセインのイラクの時代に、西洋の近現代  
30 の思想をイスラームの世界に取り入れようとして著作を著し、(その他にも理由があったでしょう  
が)政治犯として処刑された例(\*)があります。著作を公にする、ということは命懸けのこと  
なのでした(20世紀後半のことです)。

(\*)ムハンマド・バーキルッ=サドルの『イスラーム哲学』『イスラーム経済論』などは、日本  
語訳で読めます。

Q.5 先生はアラビア語をどうやって勉強されましたか？ アラブ圏に行ったことはありますか？

35 Q.5' 先生はアラビア語も習得されているように見えるのですが、どのようなきっかけでアラ  
ビア語を勉強しようと思ったのですか。また、他の言語とアラビア語でも、習得するときに何か  
コツがあれば教えてくれるとうれしいです。

A.5 今は失われた、初期アリストテレスによる、対話篇(アリストテレスもプラトンのよう  
な対話篇を書いていた)についての研究論文を読んでいて、9世紀のアル=キンディーの著作には、  
40 初期アリストテレスの著作についての言及があるらしいことを知って、これは、いつか、アラブ  
語(アラビア語)をやらなければならない、と思って、とりあえず、手に入るアラビア語文法の  
本を独習しました。しかし、ひとりで勉強していると、わからないことがあるので、大学の授業  
に出たり、日本に留学中のエジプト人にレッスンしてもらったりしました。

それから、私は、習得しているといえるような言語はないし、そもそも、習得しようと思いま  
45 せんので、習得に関しては、すでに何語であれ、習得している人に尋ねてください。私がやって



いることは、ある文献に何が書かれているのか知りたいので、それを読めるようになること、また、それを研究している自分以外の研究者と意思の疎通をはかるための道具としての言葉を使うこと、くらいです。

習得しようなどと構えず、気になる言葉があれば、どんどん、文法書や入門書、辞書を手に入  
5 れて、自分で勝手に勉強し始めればよいのです。そして、挫折して、しばらくして、また、始め  
る、というのでよいのではないですか。

アラビア語が日常語になっている、という意味でのアラブ圏には行ったことはありません。が、  
以前、アムステルダム（オランダ）の安いホテルに泊まったとき、早朝のフロント係の人は、私  
と英語でやりとりするとき以外は、携帯でずっと誰かと話していましたが、どうもアラブ語で話  
10 しているようでした。

Q. 6 （第5回の）Q8(ママ, Q. 8)を見ての質問です。

もっとも影響を受けているのはアリストテレスとあり、卒論で取り上げたとありました。

先生の卒論はアリストテレスをどう取り上げたものだったのでしょうか？ とても気になりま  
した。

A. 6 私の講義共通 Web サイトの「各講義・共通」にある、C 6「学部生の頃」（『人文学へのい  
15 ざない』第2版より）に書いてあります。それを読んで下さい。また、卒論の本文そのものは、私  
の Web サイトの Pagina Latina にそのまま、アップロードしてありますから、Web 上で読むことが  
できます。

ラテン語のページ

20 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/index.l.temp.shtml>

Q. 7 アリストテレスの著作はかなり回りくどい方法で伝わっていたのだなと思いました。

A. 7 13 世紀以降は、ヨーロッパにも調べてみると、ギリシア語の写本はあるところにはあ  
るので（それまで顧みられていなかった）、ギリシア語から直接ラテン語に訳されるようになりま  
した。

25 Q. 8 トマス=アクィナスがキリスト教とアリストテレス哲学の折衷をやったように、アル=キン  
ディイーはイスラームとアリストテレス哲学の折衷を図った、ということでもいいのでしょうか。

A. 8 「折衷」の意味次第ですが、どういう意味に解しても、私の理解するところ、「トマス=  
アクィナスがキリスト教とアリストテレス哲学の折衷をやった」とは思いませんので、はっきり  
言って、違います。よくありません。「トマス=アクィナスがキリスト教とアリストテレス哲学の  
30 折衷をやった」というのは、誰の見解ですか？ 典拠があれば、示して下さい。

アル=キンディイーは、折衷したかもしれませんが、全貌がわからないので、軽率に、そう言いきる  
ことはできないかもしれません。

Q. 9 「民族、国民によらず、彼らによって到達された真理は、尊重されなければならない」と  
いうアル=キンディイーの真理観には共鳴します。

35 A. 9 9 世紀のバクダッド、イスラームの世界で、こんなことを言えるなんて、私も、すごい  
ことだと思います。

Q. 10 自分たちはたしかに日本語訳されたものしか読んでいないと思いました。実際に、異なる  
言語の本を今日初めて見ましたが理解できませんでした。それと同時に、異なる言語を理解し  
て読まなければ文章の本来の意味を考えることができないんだなと感じました。

40 A. 10 どの分野であれ、できるだけ原典を自分で読むように心がけ、自分に今必要そうなこと  
ば、将来必要になりそうなことばを学ぶ機会をとらえて、勉強しておくとういでしょう。

Q. 11 この当時のヨーロッパではラテン語を読める人はどれくらいいたのですか？

A. 11 私にはわかりません。「この当時」がいつであるかによるでしょうが、10 世紀以降なら  
ば、聖職者や大学関係者（教師と学生）の人口に関する資料やそういう研究はないか、調べてみて  
45 下さい（西洋史学の分野の仕事だと思います）。もっとも、ラテン語がわかる（読める、書ける、

話せる、聞いてわかる), ということにも程度の差があるでしょうが、現在では、どれくらい、いると思いますか？ 例えば、この広島大学で何人くらい？ とか、文学部では、何人くらい？

5 Q. 12 PA=Phoenix Assistant で少し違和感だと (ママ、違和感があると) 思っていた正体に気付きました。ありがとうございます。(ph を f と発音することに対して、どうして発音が一緒なのかなと思うところがあります。)

A. 12 どういたしまして。略号を決めた教員 (たち) の西洋古典語 (ギリシア語, ラテン語) に関する教養のなさを露呈する, ひいては, 大学の評価を下げる, 嘆かわしい出来事ですが, 将来, 諸君はこういうことがないように, しっかり勉強してください。

10 ところで, 古典ギリシア語の φ と古典ラテン語の ph は, 少なくとも, 紀元前には, つよい息を伴った「パ, ピ, プ, ペ, ポ」の音を表していました。ですから, ギリシア語でも, ラテン語でも, φιλοσοφία, philosophia は, 「ピロソピアー」と言っていたはずですが, それが, 紀元後になると, いつの頃からかわかりませんが, 「フィロソフィアー」に, 変わったようです。ですから, philosophy (英), philosophie (仏), Philosophie (独) で, "ph" の音は "f" ですが, イタリア語では, 最初から, filosofia, スペイン語でも, filosofía と書きます。

15 Q. 13 授業のはじめに先生はブラームスの曲を弾くと話されていましたが, 何の楽器を弾かれるのですか? (楽器ができる人はカッコいいと思います。私は以前ギターを勝って弾いていましたが, センスがなく, 今は"楽器"ではなく"オブジェ"になっています)

A. 13 ピアノ, チェロ, ヴィオラとやりましたが, 一番長いのは, チェロです。ときどき, 弾くチェロのほかに, 家にも, オブジェになっているチェロもあります。最近は弾いていません。

20 全体のインデックス <http://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/>  
上記からリンクをたどっていくと, 何をやっているんだか, ある程度わかります。

Q. 14 キリストのシンボルが魚であるという話は興味深かったです。

A. 14 ギリシア語の知識が必要な情報ですが, サカナくんやサカナクションとは関係ありませんね。まサカナあ〜。失礼しました。